

年間報告書 2008

同志社エコプロジェクト



Doshisha Eco Project 2008

同志社大学省エネルギー推進委員会

同志社エコプロジェクト (DEP)

〒610-0394

京田辺市多々羅都谷1-3 ローム記念館2階 RM223

TEL : 0774-65-7813

MAIL : dep.asumi@gmail.com

URL : <http://eco-pro.doshisha.ac.jp/>

Contents

- 01 あいさつ
- 03 DEP 理念と組織図
- 04 年間活動の軌跡
- 05 通時活動報告
あすみチャンネル / 広報 / GC
+E / エコクロ / RLB
- 07 外部参加イベント
京都環境フェスティバル / 京都議定書発効記念イベント / ecocon
- 09 世界学生環境サミット in 京都
- 13 学内省エネ活動報告
- 15 太田航平氏が語る —NPO の可能性 学生の可能性—
- 17 1 回生特別レポート企画
エ～コな税制 / リサイクルは本当にエコ !!?
- 19 真剣 DEP しゃべり場
- 21 お知らせ
- 22 編集後記・メンバー紹介

あいさつ

設立から二年目を経た DEP。

『年間報告書 08』ではその活動の軌跡を追います。

What happened in 2008?



片山 傳生

同志社大学 副学長
省エネルギー推進委員会 委員長

■ 2008 年度の活動を振り返って…

2008 年度の DEP 活動は、組織設立から 2 年目にはいったということから、夏季、冬季の空調温度の設定など具体的な省エネ活動に取り組むことができたことは大変意義のあることと思っています。もともと同志社エコプロジェクト (DEP) は、大学の省エネルギー推進委員会が学生といっしょに効果的な省エネ活動を進めていきたいと考えて設置しました。今年度の活動の中で、設立の目的のひとつであった具体的な省エネ活動に取り組めたことは大学の責任者として、とても喜んでます。

同志社大学は、学生数も多く、広大なキャンパスを擁していますので、実際に省エネ効果をあげ、大量のごみなどの廃棄物を削減することは、なかなか困難なことだと思っていますが、大学と学生が連携して着実に成果を達成していきたいと思っています。また、2008 年度の大きな取組として、世界初の試みとなった「世界学生環境サミット in 京都」を DEP の学生が中心となって成功させたことは高く評価しています。

■ これから必要だと思う環境活動 (大学の視点で)

大学は、2008 年 4 月、環境保全・実験実習支援センターを設立し、省エネをはじめとした環境問題への取組み、教育・研究の場の安全な環境整備をさらに進めることを開始しました。学内の省エネ、廃棄物、自然環境保全の取組とあわせて、地球温暖化防止など世界的な環境問題にも本学の有する知的資産を活用して取組んでいきたいと思っています。そのためには、学内での教職員と学生との協力だけでなく、行政、企業、市民など社会との連携も視野に入れて、積極的な取組ができればと希望しています。

大学の社会的責任の観点からも、大学と学生が社会との連携を進め、さらに効果的な環境問題解決に向けての活動を展開していきたいと思っています。学生のみなさんの活躍にも大いに期待しています。



鈴木 一登

同志社エコプロジェクト 学生リーダー
同志社大学大学院工学研究科
数理環境化学専攻 修士課程 一年次生

■ 2008 年度の活動を振り返って…

DEP 設立より、ようやく 2 年。振り返れば、学生・教職員・まさに全学を挙げて行った省エネ活動。本当に大きな反響を得た世界学生環境サミット in 京都。これらの活動が頭に浮かびます。ともに、メンバー全員が初めての経験で何から手をつけようか悩み抜いて活動していましたね。ただ、それ以上に、常にプロジェクトルームでいつもメンバーの笑い声が聞こえていたことが一番印象に残っていますね。

■ これから必要だと思う環境活動 (学生の視点で)

多くの学生が親にお金を出してもらい、大学で勉強をしているのは社会に出るためです。だから、僕たちはまず環境について多くを学び、考えて成長し、環境に対する意識を持って社会に出る。これが学生に求められている一番の環境活動であると思います。そして、僕たちが環境について考えることをスタンダードとする第一世代となり、世の中を変えていく。そんな意識と行動力が必要だと思います。

■ あなたにとって「環境」とは何でしょうか。

Tool です。僕自身が成長するための Tool。様々な人と出会うための Tool。社会に出るための Tool。様々な意味で Tool として捉えています。そして、だからこそ、いつでも本気になって「環境」というものに取り組めるのだと思います。

年間スケジュール

2008年度の主な活動記録

	全体活動	各プロジェクト活動
4月	新入生歓迎イベント	【あすみ ch】プロジェクトスタート 【RLB】プロジェクトスタート
5月	第1・2回全体会 世界学生環境サミット in 京都 合宿	
6月	第3・4回全体会 世界学生環境サミット in 京都開催 夏の省エネ活動（冷房使用期間中）	【あすみ ch】スタートアップ報告会 【RLB】RLB導入（今出川校地） 【エコクロ】プロジェクトスタート 【広報】プリントスリム化大作戦
7月	第5・6回全体会 世界学生環境サミット in 京都 成果報告会 省エネアンケート実施	【広報】でっぶっぷ3号発行 【広報】省エネ強化月間
8月	第7・8回全体会	【あすみ ch】ステップアップキャンプ
9月	夏の全体合宿	【あすみ ch】中間報告会 【+E】プロジェクトスタート
10月	第9回全体会	【RLB】活動終了
11月	第10回全体会 冬の省エネ活動（暖房使用期間中）	【+E】出前授業 【+E・あすみ ch】同志社京田辺祭
12月	第11回全体会 京都環境フェスティバル ecocon2008 冬の日帰り合宿 ～でっぶにどっぶり～	【広報】でっぶっぷ4号発行 【GC】プロジェクトスタート
1月	第12回全体会	
2月	第13回全体会 京都議定書発効記念活動交流会	【+E】出前授業
3月	第14回全体会	【あすみ ch】最終成果報告会 【広報】年間報告書発行

理念

本プロジェクトは以下のような理念とその方針を持ち、活動する。

理念：同志社大学において、学生・大学が共に環境問題を世界的視野で捉え、その問題解決に向けた活動を実践していく。そして、その成果を社会に対して還元していく。

方針：「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の三分野に主軸を置き、各分野の環境問題解決に向けて大学の特性を生かした多面的・継続的アプローチを行っていく。

同志社エコプロジェクト申し合わせ 第一条第二項より

組織図

同志社大学

親組織 省エネルギー推進委員会
事務局 環境保全・実験実習支援センター
環境保全課

同志社エコプロジェクト

運営部

本プロジェクトを未来につなげるための運営活動及び本プロジェクトの現在の活動が円滑に進むための運営活動を行う部署。

活動部

本プロジェクトの理念を達する学生ならではの環境活動を実践・提言していく部署。

全体プロジェクト
省エネ活動
広報

同志社ローム記念館
プロジェクト
あすみチャンネル

個別プロジェクト
+E（環境教育）
エコクロ（被服廃棄物）
GC（国際交流）

+E

『+E(プラスイー)』は「子供達に環境問題への興味・関心を持たせ、考えるキッカケを与えること」を目的とし、2008年度9月に発足したプロジェクトです。

『+E』という名前は「Environment (環境)」、「Education (教育)」、「Enjoyment (楽しむ)」の3つの単語の頭文字が由来です。日々の生活の中に「Environment」、「Education」、「Enjoyment」を+(プラス)し、身近にしていこうという思いを込めています。2008年度は、2009年度の活動に向けた準備(生物多様性や里山に関する勉強授業に使うスライドの作成、ワークショップの具体化など)を行ってきました。

それを元に、2009年度から本格的な活動をスタートし、「bidi(ビディ)」という生物多様性がテーマのカードゲームを使った環境授業の実施、また京田辺キャンパスの里山を利用したワークショップを展開していく予定です。



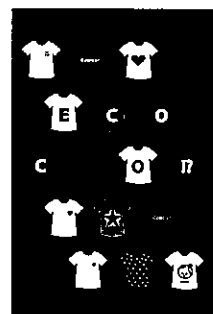
エコクロ

『エコクロ』は、eco clothing の略語です。

DEP では廃棄物に関する環境問題に着目しています。中でも被服廃棄物に焦点を絞って取り組むプロジェクトが、この『エコクロ』です。

まずは、活動内容を紹介します。私たちは古着を「まだまだ着ることが出来るが、もう着ない服」と定義しています。その古着を大学生から回収し、大学生向けに市場を開くことが、主な活動内容です。2008年度には、大学に見せる企画書の作成を行いながら、地域のフリーマーケットなどに出て、古着販売の経験を積んできました。現在は、完成した企画書をもとに被服廃棄物の現状を調査し、マーケットを開くことを大学と調整中しています。最終的に目指すものは、「環境もファッションも最先端な大学」です。

2009年度には第一回のマーケットを開けるように頑張っていきます。



RLB

2008年6月下旬から、同志社生協では今出川校地で販売される弁当の一部に、リサイクル可能な紙容器を使用するという取り組みが始まりました。食べ終わった容器は、内側のフィルムをはがして折りたたみ、所定の回収ボックスへ入れることで、古紙として回収され、リサイクルできるというシステムです。従来の使い捨て容器と比べると、大幅なゴミの減量が期待できます。『RLB(=リサイクルランチボックス)』企画は、それに協力するという形でランチボックスのデザイン、告知ポスターの作成、回収ボックスの考案などに取り組まれました。導入開始から約半年を経て、徐々に学生の間にも浸透してきたように思われます。

今後は『RLB』に所属していた一部メンバーが学生有志として、さらなる回収率のアップを目指して協力・活動していく予定です。

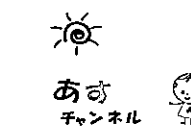


あすみチャンネル

『あすみチャンネル』は環境問題をテーマに映像を制作し、テレビやWEBを利用した継続的配信によって、環境問題に対する意識向上を目指すプロジェクトです。2008年度の4月から開始し、学生と大学周辺地域の人々をターゲットとした番組「あすみチャンネル」を制作しています。ゆくゆくは日本全国にエコブームを巻き起こすことを目標としています。2009年度4月からの定期番組配信に向けて、更なる撮影技術スキルの向上と番組コンテンツの充実のために、メンバーが一丸となって日々頑張っています。

「あすみチャンネル」の動画を見たい方はウェブサイトへ。メンバーによるブログも随時更新中です。

ウェブサイト → <http://asumich.doshisha.ac.jp/>



広報

『広報活動』は、学内外でのDEP活動の認知度と、理解度を上げるための活動です。7月と12月に発行した学生向け環境情報誌『でっぷっぷ』では、身近な環境問題やエコ知識を題材に、学生のエコへの興味や意識向上を目指した親しみやすい雑誌を作成しました。また、DEPの1年間の活動を学内や社会に報告する、本誌『年間報告書』を作成しました。『でっぷっぷ3・4号』は学内各所、年間報告書は学内外に設置されています。

その他に「プリントスリム化大作戦」と称して、学内印刷機での両面印刷・Nアップ印刷を促し、紙使用量を削減するための広報活動や、メンバー募集のポスター制作も行い、DEPを学内外で浸透させるための活動を行いました。



GC

『GC(Global Communication)』とは、世界中の環境問題に取り組む大学と情報交換を行い、DEPの活動を世界に発信するとともに、活動の場を世界に広げるためのプロジェクトです。世界の学生との交流を通じて、お互いに環境意識・知識を高め合い、地球人口=環境人口である社会を目指します。2008年度には、「世界学生環境ネットワーク in 京都」で採択された学生意見書に基づき、「世界学生環境ネットワーク (ISEN)」が設立されました。このISENに同志社大学が加盟するにあたり、DEPでの国際的役割を果たすべく立ち上がったのが『GC』です。2009年度は、カナダで開催される「世界学生環境サミット in ビクトリア」への参加や、国内環境交流会(仮)の開催を企画しています。今後は、ネットワークを広げ、世界と協力して環境問題を解決する足掛かりとされるよう努力していきます。



2008年12月22、23日、東京都国際オリンピックセンターにて「ecocon 2008」が開催されました。ecoconとは、全国各地から集まった学生たちが、自分たちの環境活動を発表し、環境に関する様々な分野で活躍中の社会人や他の学生が、それを評価、選考、表彰するコンテストです。今年は全国から58団体が一挙に集結しました。

DEPの発表

DEPでは昨年に引き続き4名の学生が出場し、世界学生環境サミット in 京都と世界のネットワーク作りについて、成果報告を行いました。惜しくも最終選考は逃してしまいましたが、国境を越えた規模の大きさ、利害関係の障壁への挑戦など、DEPの活動に対して非常に高い評価を頂きました。

発表や選考のための討議、質疑応答、意見交換を通じて、自分たちの活動の新たな魅力や欠点にも気付くことができ、改めてDEPの本質を振り返る絶好の機会となりました。また夜に開かれた全体交流会では、全国の社会人・学生たちと交流し、活動の輪を広げる新たなつながりも生まれました。DEPメンバーにとって、より良い活動へのモチベーション向上のきっかけとなりました。



評価

審査員の評価としては、国際会議の成功、世界の環境ネットワーク作り、発表のパフォーマンスが評価されました。今後の課題として、世界学生とのコミュニケーションギャップや、どのように継続、普及させていくのかが挙げられ、多くの学生や社会の人々がISENの発展と成功に大きな期待を寄せて下さいました。



他団体紹介

ecoconを通してDEPメンバーも学内外の環境問題だけでなく、社会性、地域性、技術性に特化した環境活動を学ぶことができました。

KITECO (北見工業大学)

工学部という立場を生かし、大学のエレベーターの電力使用量の調査等を行い、その結果を学内に伝えることによって環境意識の向上を図っていました。

オストリッチーズ (女子美術大学)

産業廃棄物になったダチョウの卵の殻で植木鉢を作り、その苗で緑豊かな学校づくりを目指していました。



感想

ecoconを通して、学内の環境問題だけでなく、社会性、地域性、技術性に特化した環境活動を学ぶことができました。環境問題を様々な視点から捉え、自ら問題解決に取り組む様々な団体の活動に触れ、「隣のアイツに火をつける!!」のキャッチフレーズよろしく、それぞれの団体が刺激を受けて活動意欲を向上させることができました。



京都環境フェスティバル

●京都環境フェスティバル

2008年12月13・14日と京都府総合見本市会館(パルスプラザ)にて、京都府内で活動しているNPO・学校・企業等が集まり、環境について楽しみながら学び考えることができる参加・体験型イベントとして、「京都環境フェスティバル2008」が開催されました。

今年の京都環境フェスティバルは、127団体が出展し、来場者数は2日間で27,000人にも及びました。

●京都環境フェスティバルへの参加

2008年度、DEPは、京都府と共に「世界学生環境サミット in 京都」を開催いたしました。その縁で、今回の京都環境フェスティバルに初参加することになりました。さらに、出展と共に、ステージにおける自分たちの環境活動についての発表を行いました。

出展では、DEPの活動に関するパネル展示、bidiという、生物多様性について学べるカードゲームによるワークショップを行いました。パネル展示では見学された来場者の方との交流や、他団体の方との名刺交換などをして、お互いにとって有意義な情報交換ができました。本当にたくさんの環境団体があり、京都府内の環境へ取り組む力を一目瞭然で感じることができました。

環境活動についての発表においては、立命館大学、京都府立北桑田高校と共に学生の環境活動の発表を行いました。今年度行った世界学生環境サミットの報告を中心にDEPの取り組みを会場の皆様に発表しました。DEPとしては、今回は初めての外部における活動発表の場でした。自分たちの活動に対してどんな反応を示すのか、大変気になりました。しかし、多くの来場者の方々にご声援をいただき、これも普段の活動が評価された結果だと嬉しくなりました。



京都議定書発効記念活動交流会

2009年2月15日、京都市勤業館(みやこめっせ)で開催された京都議定書発効記念活動交流会に参加しました。このイベントは2005年2月16日の京都議定書発効を記念し、京都で環境問題に取り組んでいるNPO・企業・行政・大学などがブース展示やステージ発表等で自身の活動を紹介しました。また、イベントのテーマが「京野菜を食べよう(地産地消)」という事で、スローライフについてのトークセッション、京野菜を使った料理の無料提供なども行われていました。

DEPは、ブース展示による活動紹介と「あすみチャンネル」で製作しているCM『残したい「環境」はなんですか?』のロケを敢行しました。ブースには同志社大学出身の方も来られて、母校の取り組みを非常に喜ばれていました。DEPが同志社大学の歴史と伝統を背負って活動していることを実感し、今後の活動に対する励みとなりました。

サミット期間中の討議内容

第一分科会

温暖化防止に向けた技術分科会

第一分科会では、地球温暖化防止に向けた新技術の研究成果・構想の発表や、意見交換が行われた。COP3と京都議定書、地球温暖化への科学的な知見の確認、エネルギーの未来像について、さらには技術者や研究者のあるべき姿などを話し合った。特に、原子力発電の是非、排出権取引、自然エネルギーなどに関して活発な議論が行われた。

第二分科会

環境ネットワーク・創造分科会

第二分科会では、世界の学生が持続可能な発展を実現するための行動を起こす際に、どのような行動が可能であるかが話し合われた。大学単位でできる小規模な活動と、企業や国家を巻き込む大規模な活動が提案された。学生独自の視点で、大学から社会へ発信できる活動と、それらをいかに実践するかを考えた結果、意識とネットワークの重要性を再確認した。

6/19

19:00 ~ 歓迎会

10:00 ~ 開会式

11:00 ~ 全体会

13:00 ~ 第一分科会 / 第二分科会

16:00 ~ 京セラ施設見学

20:20 ~ 第一分科会 / 第二分科会

10:00 ~ 第一分科会 / 第二分科会

17:00 ~ 全体会

6/21

9:00 ~ 第三分科会

9:30 ~ 全体会

12:30 ~ 学生意見書採択

16:00 ~ 閉会式

18:00 ~ 交流会

6/20

学生意見書採択式 (一般公開)

<挨拶> 京都府知事 山田啓二氏

<基調講演> 衆議院議員 小池百合子氏

学生意見書宣言

学生意見書採択

6/22

全体会では、持続可能な発展にとって何が必要か、私たちには何ができるのか話し合われた。また、第一・第二分科会の内容を含め、学生意見書をまとめた。議論の結果、「持続可能な発展」だけでは定義しきれない新しい理念として、2つの考えが採用された。「選び取るべき未来」と「3C (保全 Conserve、創造 Create、協力 Collaborate) の原則」である。これらは学生意見書に盛り込まれた。

全体会

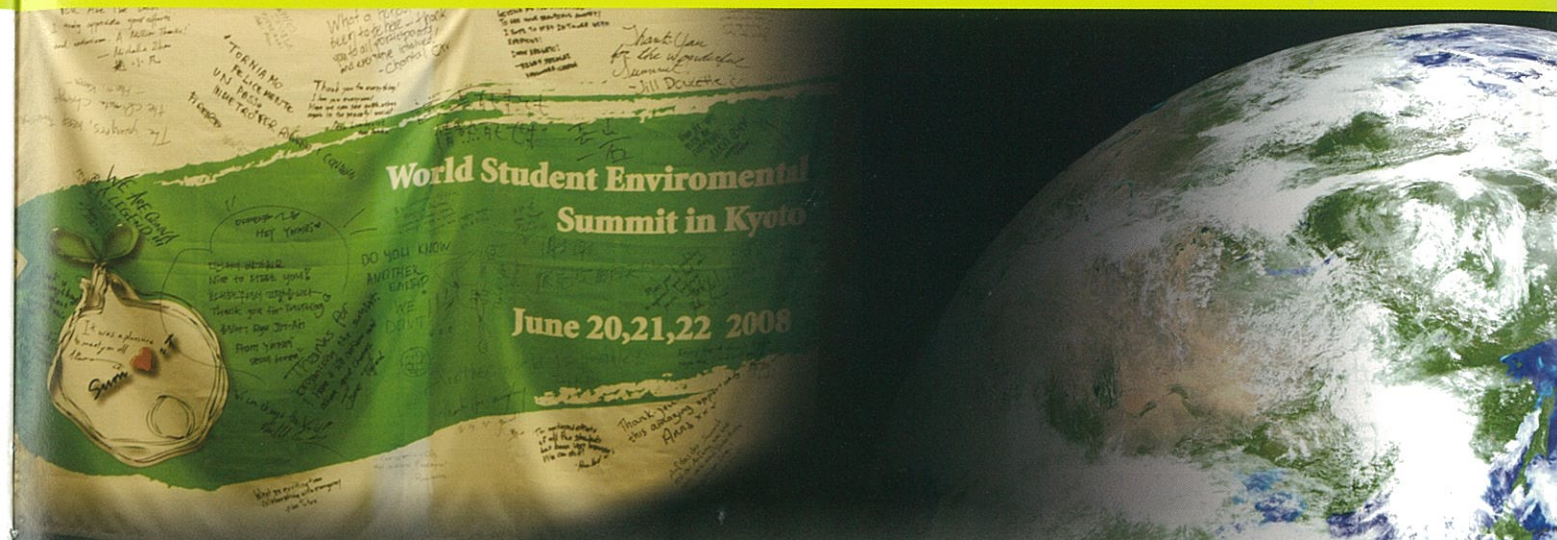
recognizing that our recurring systems of energy and resource use are unsustainable, we must respect the Earth's natural limitations. "Creation" makes up the next important part of the 3C principle. The participants have presented ways of bringing new technologies into practical use that hold promise for reducing environmental impacts of human activities. The use and development of these technologies, respecting their

学生意見書を作成

第三分科会では、「60年後孫にどのような生活を送ってもらいたいか」をテーマに、環境教育について、日本語での意見交換が行われた。最終的に、環境教育には、知識・経験・思考の3要素が重要だという結論に至った。具体的には、学校での環境教育、環境を受験科目にすること、自然とのふれあい・遊びを通じて環境意識を育てること、そして、これらを基に、どのように子どもたち自身に環境について考えさせるかなどが挙げられた。

国際交流分科会

第三分科会



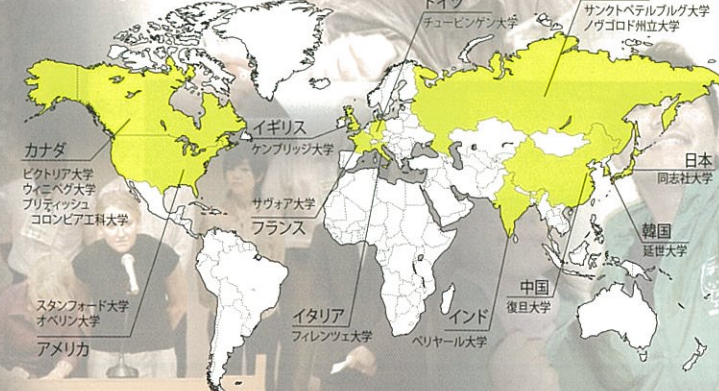
世界学生環境サミット in 京都

2008年7月に開催された主要国首脳会議(北海道洞爺湖サミット)に先立ち、6月20~22日の3日間、DEPの学生が中心となって『世界学生環境サミット in 京都』を開催した。世界11カ国16大学から、学生と教授合わせて56名が同志社大学に集まり、地球市民の立場から持続可能な発展に向けての議論を行った。

議論は3つの分科会に分かれて行い、さらに全体会では、それらをまとめて、学生意見書を作り上げた。なお、第三分科会以外では、全て英語で議論が進められた。これらの議論を通して、世界学生環境ネットワーク (ISEN) の設立をはじめとする、環境問題へのアプローチ方法や学生の意志をまとめた学生意見書が採択され、洞爺湖サミットへ提出された。

世界学生環境サミット in 京都の最終目標は、「次世代を担う私たち学生から『持続可能な発展』をキーワードに新しい世界のイメージを提示し、そのイメージに向けて理解を深め、実現に向けて一人一人の学生が主体的に行動すること」であった。

参加大学

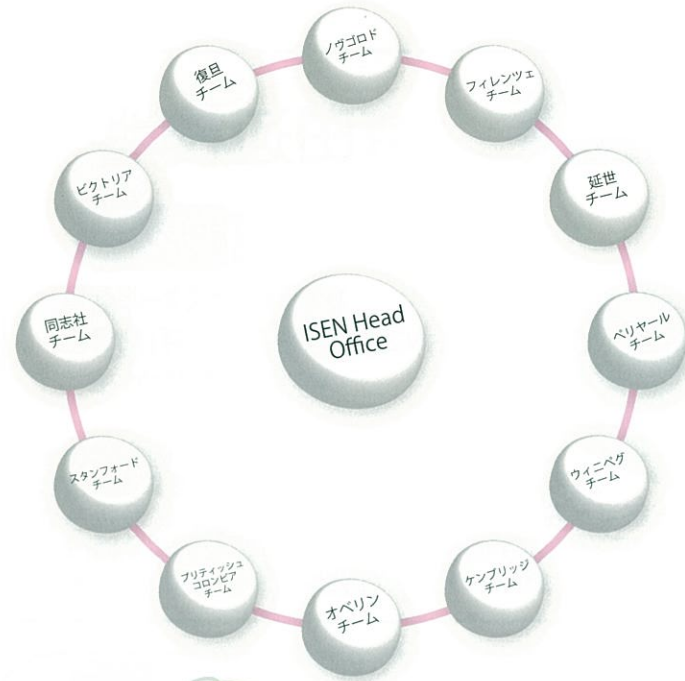


サミットのこれから

ISEN の設立

世界学生環境ネットワークは、環境問題の解決策を考え出し、地球の気候変動に立ち向かおうとする学生たちのネットワークである。私たちは多様であることの長所を活かし、熱意を持って協力し、イニシアチブを発揮していく。現在の環境問題に立ち向かうという役割に積極的に取り組む人々の一部である。私たちは、世界を変革させる力になりたいと考える学生たちのネットワークである。

参照：世界学生環境サミット in 京都「学生意見書」



自らアクション

→社会へ発信

Ex) 学内環境基準の設定
地域密着型環境アセスメント

世界の環境マインドが集結 国境を越えたネットワーク

- ・ISEN 本部：同志社大学
- ・ISEN 支部：現在 14 大学

世界学生環境サミット 未来への「学生意見書」 →政治・ビジネスへ提言

世界学生環境ネットワーク (ISEN: International Student Environmental Network) は気候変動問題解決に向けて、世界の学生達がつながり共通の環境活動を実現するために設立されたグローバルアクションである。大学を基盤とするネットワークのため、毎年度の世界学生環境サミットや共通の行動枠組みなど、国境を超えた継続的アクションが可能となる。2008年に同志社大学で開催された「世界学生環境サミット in 京都」にて発案・承認され、本国際会議に参加した大学を中心とし設立準備が進められてきた。昨年11月には、同志社大学にISEN本部が正式設立されることが決定し、それに加えて、同志社生としてISENに関わるためのDEP内のプロジェクト、「Global Communication」が始まった。2009年、いよいよISENが活動を開始する。

主催：世界環境学生サミット in 京都 実行委員会
(構成団体：同志社大学、京都府、京と地球の共生府民会議)
共催：毎日新聞社
後援：環境省、文部科学省、経済産業省、京都市、
2008年サミット外相会合京都支援推進協議会、駐大阪・神戸アメリカ総領事館、
大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、在大阪ロシア連邦総領事館、
在大阪・神戸フランス総領事館、中華人民共和国駐大阪総領事館、
在大阪イタリア総領事館、在大阪大韓民国総領事館
協賛：京セラ(株)、(株)堀場製作所、松下電器、関西電力(株)、大阪ガス(株)、
ローム(株)、(株)村田製作所、オムロン(株)、シャープ(株)、
(財)コカ・コーラ教育・環境財団、日本ユニシス(株)、
コニカミノルタホールディングス(株)、(株)ローソン、ダイキン工業(株)、
(株)きんでん、(株)テクノ菱和、NECシステムテクノロジー(株)、
(株)京都銀行、がんこフードサービス(株)、福田金属箔粉工業(株)、
カンケンテクノ(株)、近畿日本鉄道(株)、(株)JTB西日本、(株)イシダ、
佐川急便(株)、(株)日立製作所、宝酒造(株)、(財)京都和装産業振興財団、
同志社生活協同組合、KYO-YOU、(株)同志社エンタープライズ、
NPO法人あいだぶ KYOTO、同志社校友会 (順不同・2008年6月現在)

次回サミット

2009年6月カナダにて「世界学生環境サミット in ビクトリア」が開催される。ビクトリア大学はブリティッシュ・コロンビア州の首都に位置し、「世界学生環境サミット in 京都」では第二分科会議長大学として参加していた。第一回サミットを受け継ぎ、分科会形式の継続による効果的な議論とより一層発展した学生意見書の作成を達成すべく、昨年10月から準備が進められている。ビクトリアサミットは中東地域の参加大学の可能性やマスコミとの協力関係など、京都サミット以上の学術性とネットワークの広がり期待される。

サミットの軌跡

1~3月

『世界学生環境サミット in 京都』は、サミット実行委員会の立ち上げから始まった。実行委員はDEPの学生を中心に、学内外から参加を募って編成された。実行委員の立ち上げ直後の1月から3月までに、議事運営部、総務部、広報部、企画部などの部署決定や運営計画、サミットのテーマや分科会の内容・企画の詰めなど、土台づくりを行った。

4月

運営委員会のメンバーを学内外から募集し、特にオリエンテーション期間中には、新入生を対象にサミットの説明会や勧誘活動を行った。

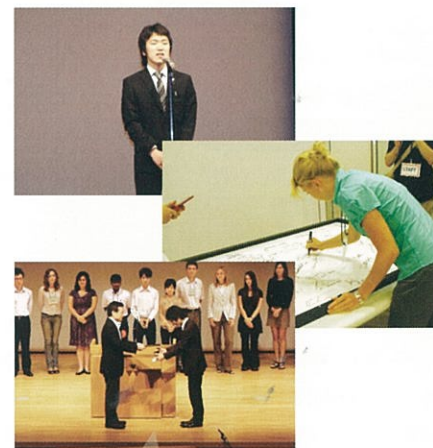


5月

一ヶ月後に本番が迫った5月には、本番を想定した模擬サミットを行った。メンバーが各国のサミット参加者に扮し、全員で仮学生意見書を作成した。インターネットを活用し、海外学生との議論が本格的にスタートしたのもこの時期である。週に一度問題提起をし、それに対する回答を得るという方法で、5週に渡る議論を展開した。

6月

そして迎えた本番6月。3日間、参加学生全員が夜通しで議論を行い、最終日には「選びとるべき未来」や「3Cの原則」をキーワードとする学生意見書をまとめあげるに至った。



学生意見書 (一部抜粋) 上：和訳 下：原文

もし人類が現在の道を進み続けるのならば、覆すことのできない、破壊的な気候変動が引き起こされることは間違いありません。2008年6月に行われた世界学生環境サミット in 京都では、気候変動対策のための研究やアイデアについて話し合い、私たちの夢みるもうひとつの未来を選び取ることに合意しました。選び取るべき未来のために、私たちは、3Cの原則—保全 Conserve、創造 Create、協力 Collaborate—を提案します。

If humankind continues to follow its current path, irreversible, catastrophic climate change is inevitable. An alternative future has been discussed during the first World Environmental Student Summit and is described in the student proposal! To prevent catastrophic climate change and realize the choice of an alternative future, we believe we must adopt the 3C principle: 'conserve, create and collaborate'.

意見書採択式

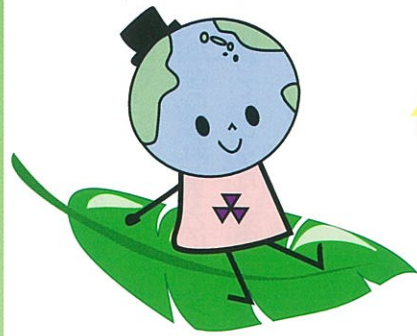
はじめに、各会の議長らによる学生意見書の提案がされた。その後、参加学生代表らによる調印を行い、一言ずつ感謝の言葉をもらった。そして大喝采の中、全参加学生合意の下に採択が行われた。最後に、学生意見書を環境省地球環境局長南川秀樹さんに手渡し、採択式が終了した。



サミット期間中のエコ対策

サミット期間中は、左の図の他、様々な環境へ配慮した活動を行っていました。

Check!



同志社大学

同志社大学では、省エネ推進委員会の指導のもと、

冬：暖房の温度を20℃設定

今出川校地

実施場所 夏：神学館 臨光館
冬：今出川キャンパス全校舎

周知活動

立て看板 ポスター掲示、
食堂ポップの設置、校門前での呼びかけ
学生に対してアンケート

冬の校門前アナウンスでは、「部屋の設定温度も20℃にしました。」と学生から声をかけられるなど、省エネ活動が少しずつ広まってきているのを実感しました。一方では、まだ「勝手に変更するな」など厳しい意見があり、省エネ活動の見直しを進めていくべきであると思いました。(今出川担当)

活動の



省エネ活動

同志社エコプロジェクト主体で省エネ活動を行いました。

夏：冷房の温度を+1.8℃

夏：知真館2号館 夢告館 **実施場所** 京田辺校地
冬：京田辺キャンパス全校舎

周知活動

立て看板 ポスター掲示
食堂ポップの設置、校門前での呼びかけ
学生に対してアンケート

様子



夏期の省エネでは、一部の教室で「蒸し風呂のようだ」と指摘されるなど、教室によって室温が著しく異なることに悩まされました。今後の反省点として、快適な学習環境維持にも配慮した省エネ活動を推進して行きたいと思います。(京田辺担当)



賛成

夏 「図書館など寒すぎる建物があります」
「小教室や少人数教室はまだ寒く感じます。」
「全学挙げて(省エネ活動を)実施すべきである」

冬 「服装で体温調節をする」
「教室の内外の温度差が小さい」
「講義中眠くなくなった」
「我慢できる範囲だった」

反対

夏 「省エネして、余った電気代を(授業料に)還元してください」
「勉強の快適環境を犯してまで、省エネを行うべきではない」
「実施教室の限定は不公平。授業料は公平に取るべきに…」
「こんな活動無駄だ。意味がない。もっとやることあるだろう。自己満足な活動だ。」

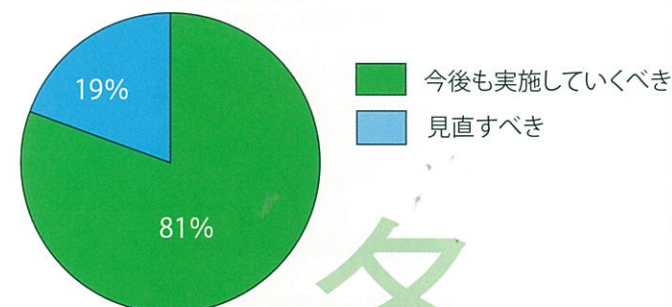
冬 「寒くて我慢できない」
「周りに風邪を引いた人が増えた」
「大教室(小教室)、1限の講義は寒い」
「学生の本分は学業であり、省エネは勉学の邪魔だ」



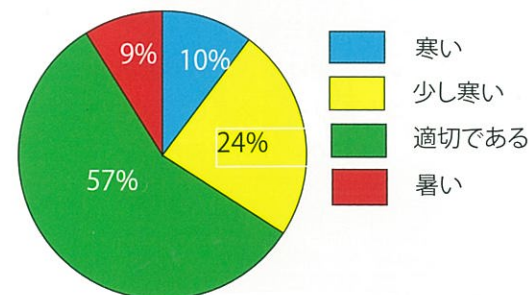
学生を対象にアンケートを実施し、意見をまとめました。

学生の声

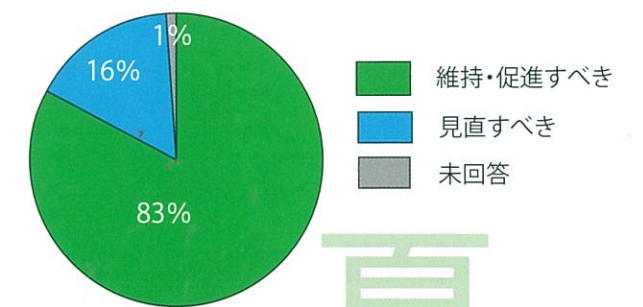
来年度もエアコンの温度を引き続き「20℃設定」
をすることについてどう思いますか？



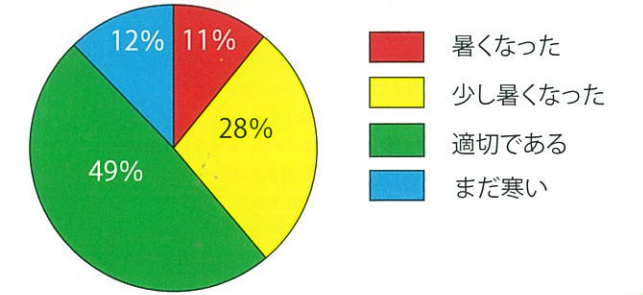
教室のエアコンの設定温度が変わりました。
体感温度はどうですか？



来年度もエアコンの温度を引き続き「+1.8℃」すること
についてどう思いますか？



教室のエアコンの設定温度が変わりました。
体感温度はどうですか？



昨年度12月、DEPの合宿でつづぶにどぶりにて、ecotone代表の太田氏に、現在の活動とそこに至るまでの経験を語ってもらった。太田氏を現在に結び付けたものは何か。

経験から見えたもの

環の活動にかかわりたい。自分はなにができるか。最初からそういう思いをもっていたわけではない。

きっかけがある。僕は東京出身で、高と東京に住んでいた。中学一年の時に阪神淡路大震災、中学三年の時に京都北部の海岸にタンカーが座礁したことがあった。遠いところの出来事を感じていたが、テレビで、自分と同世代のたくさんの方々が、ボランティア活動をしているのを見て刺激を受けた。

も

し自分あるいは身の回りでそういう事故が起こった時に、自分たちは何ができるのかを考えて

際会議に参加した。いろんな国の人々が来ていて、国の立場や文化によってそれぞれ考え方が違うなかで会議をした。参加者が本気でこの問題を何とかしなければならぬという思いで意見をぶつけあいに来ていたということがひしひしと伝わってきた。これも非常にいい経験になったと思っている。

こ

の参加もあって、京都にはさまざまな活動があることを知り、非常に魅力を感じた。だから、京都の大学に進学を決め、立命館大学に入學した。しかし九十七年に活動を引張っていた人たちはみんな卒業し、すでに活動組織自体も解散してしまっていた。だから自分たちで団体を作るしかなかった。その団体で、大学時代はひたすらいろいろな国際会議に参加した。そこでも、みんなが真剣に本気で議論に臨んでいた。

国

際会議は大切。しかし、その場の一部の人たちに決められたことによって、自分たちの生活も変化

た。何もできないと思、そういう世界を知らなくてはいけないと思、高校一年

の夏休みに東京のボランティアセンターに何かできないかと相談に行った。そうするとレゲエのコンサートでのゴミの回収活動を勧められた。音楽が好きだったし、面白そうだと思、行ってみた。当時は現在のようなゴミ回収のシステムはなく、自らゴミ袋を持って、人をかきわけ、叫びながら必死に回収を行った。たくさんボランティアと回収したにも関わらず、終わって人が引いたあと、一面を見渡すとゴミの海だった。短い時間の中でモノが大量に廃棄されていって、だれも自分のゴミを片付けない。そのときに社会の縮図を見た気がした。それは経験をしなければ知り得なかった。自分の言葉で語れる経験ができたからこそ、そのように思えた。

突っ走った大学生活

九

十七年の会議の時。東京ではそのような活動している人は少なく、たまたま立命館で行われた国

して行く。また、メディアによってその一部しか伝えられない。それに気づいたときに、こういう活動をする際には、メディアを通して活動をどう伝えるかを常に意識するようになった。

大

学三年の時に、このまま国際会議に参加し続けることに疑問を感じた。それよりも自分たちの地元でやれることをやったほうが、環境問題解決に行き着くのではという考えに至った。そこでまず、京都の祭やイベントの多さに目をつけた。どんなイベントでもごみは出る。それを何とか減らしたいと思った。もちろんすでにそこに目をつけ、現状解決に取り組もうとする学生はいたが、当時は今のようシステムは確立していなくて、どの活動も長続きしなかった。

試みを通して気づく

平

安神宮の初詣には毎年多くの露店が出ていた。そのご

太田航平
特定非営利活動法人
地域環境デザイン研究所
ecotone 代表理事



太田航平氏が語る

学生の可能性

NPOの可能性

店主との三者で話し合いを始めた。そして、ゴミ箱の設置数を減らしたり、スタッフを常置させるなど、さまざまな試みを行った。そこで、非常に驚いたのは、あらかじめそういう「仕掛け」があれば、人は雰囲気を読み取って、行動するということ。分別システムの呼びかけを行わなくても、かなりの効果があった。その経験をを通して、サービスや商品のなかにどうやって「環境」のメッセージを落とし込んでいくかがとても重要だとわかった。

ご

みの内容を調べると使い捨て容器が多いことがわかった。大規模なイベントや祭では、独自の容器を持つことは非常に困難な現状があった。そこに注目し、今までの経験を渡し、調査にも行って、リユース食器システムの推進、確立に動き出した。

環

境活動は継続的に続けたいと意味がない。またそのための管理費用がかかる。僕一人では活動を成り立たないので、いろんなスキルをもった人が集まって活動している。活動

にはさまざまな問題があり、エコトーンはまだ何とか事業として成り立っているが、行政やNPOでもまだまだ手を出しづらい部分はたくさんある。そういう部分は少しずつ人々の力を持ち寄って解決していくしかない。その時に人が増えれば増えるほど、いろんな意見が出てくる。その意味で意思疎通はすごく重要であるし、一方で、議論が重なり結局机上の空論で終わることもある。

今

各地で活動が広がってきている。そのときに重要なのは、人々に働きかける「仕掛け」を作ることと、何を伝えたいのかをはっきりさせること。そのバランスはとても重要。

学生へのメッセージ

まずはほとんど外に出ていけばいい。そして、学生だけで活動するのではなく、社会にアプローチして連携していくこと。これが学生時代の活動を通して感じたこと。

リサイクルは本当にエコ??

みなさんもリサイクルはご存知ですか。私たちがゴミ分別をする理由の一つは、リサイクルをするためです。苦勞も伴うリサイクル。本当に環境にいいことなのか、レポートします!



リサイクルについてあんまり知らないかも。

○リサイクルが押し進められてきた背景

廃棄物を有効利用し、循環型社会を確立しようという目標のもと、リサイクルという言葉が広まるようになりました。リサイクルがここまで注目されるようになった理由は、大量生産・大量消費・大量廃棄を押し進めてきた社会にあり人間が生活で生み出した廃棄物を、自然の循環ではなく、人間社会で循環させること、つまり「リサイクル」が注目を浴びてきたというわけです。

○リサイクルの問題

ペットボトルのリサイクル	家電のリサイクル
<p>分別回収の難しさ</p> <p>リサイクルと聞いて、まず思い浮かぶのはペットボトルでしょう。ペットボトルの回収には必ず分別が必要になります。しかし、ごみの分別回収をするとごみは増えてしまう可能性があります。</p> <p>その要因として</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リサイクル可能と聞くと、消費者は安心して商品を購入してしまう。 ②リサイクルにも資源を使う。 (収集、運搬のための燃料・処理のための電気) ③リサイクルは無限に繰り返せない。 ④可燃ゴミの量が減り、最も簡単な焼却処理ができないゴミが増える。 <p>実際、リサイクルのために分別回収するようになってから、資源(石油)は約7倍、ペットボトルの消費量もペットボトルの形をしたゴミも約4倍、全部のゴミを計算すると約7倍にもなりました。本来ゴミを減らすためのリサイクルが、ゴミを増やしてしまいました。</p>	<p>材料</p> <p>材料にはそれぞれ寿命があります。金属以外の材料は、一度寿命を迎えると、(リサイクルを行う以前に)再び使うことができません。</p> <p>特殊加工</p> <p>プラスチックは強度を上げるためにゴムが添付しており、そのゴムを取り除くのは非常に困難です。ガラスは用途によって組成が違うので、単純に溶かして再びガラスをつくるというわけにはいきません。これらは集めてもリサイクルできません。</p> <p>分離工学</p> <p>使用済みの家電製品を運ぶトラックのガソリンや材料を分解する過程で消費するエネルギー、事務の仕事量も増えるのでその分消費電力も増えることとなります。結局、家電をリサイクルするには新品を作る際の約10倍の石油が消費されると考えられます。</p>

○本当のリサイクルとは

リサイクルが環境にとってすべてマイナスではありません。

例えばちり紙は、古紙から作るほうがはるかに安いものです。また、金属のリサイクルは非常に効率的なので、スチールやアルミ缶のリサイクルは90%を超える再資源化が行われています。このようなプラスの面もあるのです。

リサイクルすべき製品か、しない方がよい製品かをよく考え、リサイクルをしやすい製品作りや、製品選びが推進されることが、循環型社会を実現するうえでさらに必要とされています。

エコな税制

環境というと、まず自然環境を思い浮かべる方も多いと思います。しかし、今回は身近なようで意外に知らない「環境に関する税制」についてレポートしました!

環境税ってなに?

環境負荷の抑制のため、または環境負荷を与える物質に課せられる税金のこと

point in check 1 環境税の大切さ

日本は、狭い国土の中で、海外から輸入した大量の資源を活用して豊かな経済と社会を築き上げてきました。しかし、環境への配慮なしに、こうした生活を続けていくことはできません。現在では多くの企業や民間で、環境に配慮した取り組みが始まっています。

その中で、このような取り組みへの国民・事業者の参加をより一層促進し、環境への負担の少ない社会経済システムを実現していくための有効な手段の一つとして、環境税導入が議論されています。

point in check 2 環境税の問題

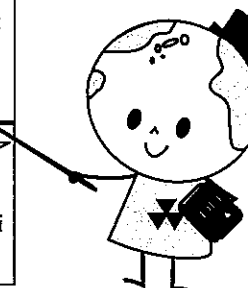
政策には常にプラスの側面とマイナスの側面があります。環境税が上がると、エネルギー価格が上昇すると考えられます。そこで環境へのメリット・デメリットを、二酸化炭素の排出と雇用の2点に着目して考えてみましょう!

	○メリット○	×デメリット×
CO ₂ 排出	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンなどの利用者は使用量を減らす ・企業は省エネルギー設備を導入 ⇒自然に二酸化炭素の排出量が減ります! ・途上国への環境支援 ・風力や太陽光など、代替発電施設の建設 ⇒国内外の環境対策を活性化します! 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ技術開発は、高コスト ・その上に環境税によるコストアップ ⇒経営を圧迫する危険性があります。 ⇒まだまだ環境規制が緩い途上国を生産拠点にしている、国内では減らせても世界的に温室効果ガスは増加してしまいます。
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・エコビジネスという新しい市場が誕生! ⇒新たな雇用を生み出します。 ⇒企業の作る省エネ商品が、消費者の購入基準となる時代が来るかもしれません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支出を抑えようとし、高い国内製品より安い海外製品を買うようになる ⇒国内企業が業績悪化します。 ⇒最終的には国内の経済が悪化して、雇用が減少します。

point in check 3 あったらしいな環境税

あったらイイナ① ゴミ税	あったらイイナ② 燃料課税	あったらイイナ③ 走行距離税
各家庭、企業におけるゴミの排出量を定め、一定以上の出した場合には税金を課す。ロンドンで施行。	主にガソリン税を高くすることによって、低燃費車の選択や公共交通機関の利用を促す。	自家用車の走行距離に比例して税金を課すことで、公共交通機関の利用を促す。
Merit ゴミが減る!	Merit 二酸化炭素排出量が減る!資源保護!	Merit 二酸化炭素排出量が減る!
Demerit ポイ捨てや不法投棄の増加	Demerit 運送費 UP による物価上昇!	Demerit 運搬などで物価上昇の可能性!

環境税 みんなはどう思ったかな?





H：僕は、身近なことを伝えていくことが必要かなって思います。[3]があふれてる現状と比べて、減らさなきゃって思うのも意識の変化です。一人一人の心掛けが大事だと思います。

S：うん。でも入ってちっちゃくない？ 二酸化炭素の排出量比率は、企業対市民で100対1くらいだよって言うからな。

K：市民が二酸化炭素排出の少ない工口製品を買うようにすれば、おのずと企業も工口製品を作るようになるはずですよ。

E：一般の人は損得勘定で動機つけられるって言うんですけど、工口製品の製造にコストがかかると製品の値段が高くなると、結局工口製品の需要は増えなくていいですか？

S：協力的な税金がいくら上がるよ、みたいなほが国民には効果あるかもな。

M：フードマイレージにしても、安価な製品と工口製品を比べる状況にあるから強い環境意識がないとみんな協力できないけど、そこに住んでたらそれしか手に入らないような状況だったら、地産地消が上手いって、自然と環境にいい商品の消費がなされます。

E：いくら環境にいいって言われても、百貨がある以上利用しちゃつまねね(笑)

H：物を大切に持つってほしいですね。まだ使えるものを捨てないとか、繰り返し使うとか。

S：ほんと、新製品出るのが早すぎやんね。

K：そもそも今の一般市民って、どの程度環境問題に協力的な意識持っているんかな？

E：ある程度協力的な意識は持っていると思うよ。でも、環境にいいことしよう、って言うのって、取り組み方が分からないんじゃないかと思う。

S：損しないことなら協力してくれると思うけど。

E：みんなは活動してみても、学内でのDEPの取り組みに対して、学生の反応はどうだったって感じる？

K：自分から進んで環境対策をしようってんじゃないけど、DEPが浸透してきてるとは思うな。

S：やっぱり20℃の看板効果で良かったよな。

E：学内の省エネ活動は、強制的な取り組みだから、学内での二酸化炭素排出削減には効果があるけど、最終的には、家に帰って同じようにエアコンの温度に気を遣えるようにみんなの意識が変化することが目標だと思う。

真剣DEP しゃべり場

～HotなDEPで
CoolなEarthを～

H：エアコン温度上げたらこんなに暑くないのや、って感じてもらうことにも意味あるかなって思うよ。エネルギーのすごさを実感してもらうことにもなるよ。

K：学内で省エネして、みんなの意識が全然変わらなくて、学校暑くてやってらんないよって意味ないもんね、家ではクーラーガンガンじゃ意味ないもんね。

M：僕は、DEP活動に対する学生の反応は、他人事、無関心、という印象でした。熱いかないかに関心あるけど、環境がどうなってるかってことには関心がないんだと思います。

S：アンケート見てもDEPの活動も続けるべきだって意見は多いけど、自分から動こうって人はほとんどいないよ。

E：無関心層に対してどんなアプローチができるか、が今後の鍵ですね。

H：まずは、自分たちが明確な環境意識を持つって環境問題に取り組みこ、その環境意識を持って社会に出ていくことが周りを支えるきっかけになると思います。

K：DEPが環境活動すること、学生も、うちの学校ではエアコン温度20℃だったよ、とか、リサイクルランチBOX使ってたよ、とか、社会に出てから思いだせるもんね。

S：環境活動って思えるのが特別な事じゃなくて、それが普通になるようにすることが大切なんだよ。電車乗ると、電気消すこと、それって「普通」やん、だから、この学生が社会に出た時に、クーラーガンガンで紙使い放題で、って状況に違和感を感じるようになってほしい。



H：現状は問題だと思ってる。K：自分の周りに影響が実感できないと、一般の人はあまり深刻に考えられないよな。M：ある本にあった統計で、環境問題は重大な問題だと思えますか？という質問には、かなり高いパーセンテージで「思わない」と答えるんですけど、「どんな国で問題が起きていますか」という質問には、どこか遠くの国と答えるみたいですよ。世界中でみんな、当事者意識が低いんです。

S：一般の人が一番考えるきっかけになるのは税金だよね。排出権を買うことになって税金が増えれば、環境問題が自分の身にも迫ってくる。

K：排出権取引は、自国の削減をあきらめて、根本的な解決にならないよ。努力しないでカンニングしてるみたいよ。努力しないでカンニングしてるみたいよ。

E：意識の改善につながらないかもね。努力しないでカンニングしてるみたいよ。

S：今の時点で、12%の道、排出権を買うことは確定してんね。カナダはもう無理だって言うて、トロッポアウトしてるし。

E：国民は排出権買うこと知ってるのかな？税金上がっても、日本不景気だからとか思ってるよ。

K：排出権についてすらちゃんと知ってる人少ないよ。排出権って何？

H：企業の信頼度とも言えるんじゃないですか。二酸化炭素削減の努力目標を掲げて、それができなかったらペナルティとしてお金を払う。大きな企業ほど国民への信頼は必要だから目標達成のために頑張るし、僕は必ずしも反対じゃないですよ。

S：減るなら問題ないね、けど、そもそも排出量が増えるって概念がおかしい話や。

K：どうせ買うなら途上国から買っとはいいな。先進国も救えれば、経済格差の是正にもつながるよ。

S：税金をかけるとか、法律を施行するってのは、「普通」に近づけることじゃない？ 99%の人間は「普通」に近づけて廃棄してるわけだし、1%の人のために特別な対策を立てるのは本末転倒だと思います。1%の人間のモラルを変えることまでが環境活動ではないよ。不法投棄は刑罰で取り締まるべき、異常な行動なんだよ。

M：モラルの問題だと思います。1%の人間のモラルを変えることまでが環境活動ではないよ。不法投棄は刑罰で取り締まるべき、異常な行動なんだよ。

S：環境意識が高めたら不法投棄やめたんだって言うてる時点でおかしいやん。

H：あすみちで海洋投棄問題について話したことがあるんですけど、大多数の人がポイ捨てをタブー視できるモラルを持つていれば、投棄もポイ捨ても取り締まらなくてもいいよ。省エネ活動なども、もつと意識の中で「普通」になればいいと思います。

K：環境に良いことをしなきゃいけない、環境に悪いことはしなかって世帯を担うてきたよ。

E：今は、環境活動も環境活動する人も、みんなから例外的に扱われて、DEPが大学でやってることは普通で、DEPが特別な変わり者の集まりだなんて思われないうちでいいよ。



E：でも、途上国は自国の発展にお金を使うかもよ。今から先進国に追いつきたいと思ってる。途上国は環境対策として悪循環じゃない。

M：資金を寄付するなら、使い道は自国の環境対策と被害者のための支援に限定しなきゃいけないよ。

S：削減できないし排出権にも問題あるなら、被害受ける国への援助金をパーセント配分して、各国で負担していく方が普通な気がするよ。

E：そうだね。環境対策って言ったって、日本では最近工口を売り出して企業が増えたり、電力会社も自動車産業も建設でも、地球にやさしいって宣伝してるし。

S：電気自動車はコスト的にかなり過剰なけど、生活に密着してて自分に損にならないことない？ 国民は協力できないよ。

K：経済、政治、ビジネスと環境はセットで考えてやんと国民には受け入れてもらえないよ。

M：温暖化の原因や対策に対して、批判した人間達だとして指摘とかを調べていくのは研究者の仕事です。一般人が温暖化の原因や対策に口を出すのもおかしいと思います。

E：二酸化炭素が温暖化の主な原因かどうかわからないけど、二酸化炭素を減らす活動自体に意味がないわけじゃないもんね。国や企業が環境対策のためにやってる活動に、私たちが国民が協力していくことが大切なんじゃない？ 最終的には、みんなの意識の問題だと思ってる。

K：私は環境教育をもっと小さい時からやるべきだと思ってる。義務教育の過程では環境の授業なかったし、今だって自分から知ろうとしないって知識は得られないよ。

E：確かにそう。小さい時に環境問題について考える時間があったら、環境意識も高まるし、大きくなってからも興味持って環境対策に関われるよ。

S：でも、原因が明確でなくて、本当に正しいことも分からない現状で、環境問題を勉強するって結構難しいよな。

H：結構プロジェクト増えましたからね。いろんな活動できて楽しかったです。

E：外部のイベントにも積極的に参加して、取材も多くなって、DEPの知名度が上がってきた感じするよな。

S：大学の二酸化炭素排出量を減らすことは義務だ。この先もDEPは大学の省エネを先頭切って進めていくから、みんな頑張ろう！！

M：DEPの活動だけでなく、世界の環境問題の現状と他国の取り組みについても情報発信していきたいですね。

H：あすみちでは、メディアを使って地域の人の環境に興味を持ってもらうことを目指します。

K：Hは出前授業も始まるけど、子供たちに小さい頃からスタンダードな環境意識を持つてもらって大きくなってから環境意識をよ。私が小学生の時に受けたかったなって思える様な授業をするつもり。

E：広報は、DEPの活動とDEPの想いを学内外に発信すること、新たに興味を持つてくれる人を少しでも増やして、環境活動に協力的・積極的になってもらうことが目標かな。

S：大学は第一に学びの場。文・法・工学なんかを学ぶのと同じように、環境を学ぶこともスタンダードにしていきたい。同志社とも言える環境だよ！みたいな大学にならなうって思うよ。

H：どこの学部に入っても環境を学べるように還元されていくはずですよ。

S：何年後かに、DEPがあるから同志社に行きたい！！って思われるようなDEPをみんなで作ってこうな。



ある日のDEP ROOMにて

S：今年度は、サミットや省エネ活動で「地球温暖化」の話題に触れることが多かったな。

E：地球温暖化って具体的にどんな影響があるの？

K：知床の水が溶けてるとか、生態系が変わるとか。

S：作物ができない気候になったり、逆にできなかった作物ができるようになったり、名産が変わるとか話もあるよ。

H：温度変化に敏感な生物の間では被害が大きくて、越前クワゲの減少とか、サンゴの白化も深刻らしいですよ。

S：産地変わったり、他国が暖かくなるのは嫌なん？温暖な方が農業ってやりやすいやんか。ロシアとか、自国で農業できんねんで。

K：名産が変わるのはいいけど、その原因を作ったのが自分たちだって思うと嫌！！

M：僕は、何でもかんでも温暖化の影響にし過ぎてるんじゃないかなあと思ってる。

E：そうだね。一般人は、温暖化のせいだって言われた方が行動しやすいし、国や企業だとして二酸化炭素を減らすことが実際に温暖化対策になるか分からなくて、二酸化炭素を減らさなきゃって言うた方が対策立てやすいよ。

M：地球温暖化の影響だ、って結論付けられて論文がかなりたくさんあって、僕が見たのでは生物の異常行動が地球温暖化の影響だ、ってのもありました。

K：何に対してどんな影響があるのか、専門の人も分からない状況なんだあ…。

S：産業革命後の気候をキープすることが一番大事なことなのか？作物や住む所を適応させていくことも対策として考えられる。

K：でもある地域では人が住めなくなったり、人命にかかわる被害が出てきたら、そんな楽観的なことは言ってられないですよ！！

H：環境を悪化させないために産業、工業を抑制すること、産業、工業や暮らしの利便性は維持しながら、人々が環境の変化に適応して、例えば住む所を確保できるように斡旋したりすること、どっちが環境対策って言うんですか？

E：どっちにしても、先進国が原因を作っているのに、被害を被っているのが途上国に偏る現状は問題だと思ってる。

K：自分の周りに影響が実感できないと、一般の人はあまり深刻に考えられないよな。

M：ある本にあった統計で、環境問題は重大な問題だと思えますか？という質問には、かなり高いパーセンテージで「思わない」と答えるんですけど、「どんな国で問題が起きていますか」という質問には、どこか遠くの国と答えるみたいですよ。世界中でみんな、当事者意識が低いんです。

S：一般の人が一番考えるきっかけになるのは税金だよね。排出権を買うことになって税金が増えれば、環境問題が自分の身にも迫ってくる。

K：排出権取引は、自国の削減をあきらめて、根本的な解決にならないよ。努力しないでカンニングしてるみたいよ。努力しないでカンニングしてるみたいよ。

E：意識の改善につながらないかもね。努力しないでカンニングしてるみたいよ。

S：今の時点で、12%の道、排出権を買うことは確定してんね。カナダはもう無理だって言うて、トロッポアウトしてるし。

E：国民は排出権買うこと知ってるのかな？税金上がっても、日本不景気だからとか思ってるよ。

K：排出権についてすらちゃんと知ってる人少ないよ。排出権って何？

H：企業の信頼度とも言えるんじゃないですか。二酸化炭素削減の努力目標を掲げて、それができなかったらペナルティとしてお金を払う。大きな企業ほど国民への信頼は必要だから目標達成のために頑張るし、僕は必ずしも反対じゃないですよ。

S：減るなら問題ないね、けど、そもそも排出量が増えるって概念がおかしい話や。

K：どうせ買うなら途上国から買っとはいいな。先進国も救えれば、経済格差の是正にもつながるよ。

E：でも、途上国は自国の発展にお金を使うかもよ。今から先進国に追いつきたいと思ってる。途上国は環境対策として悪循環じゃない。

M：資金を寄付するなら、使い道は自国の環境対策と被害者のための支援に限定しなきゃいけないよ。

S：削減できないし排出権にも問題あるなら、被害受ける国への援助金をパーセント配分して、各国で負担していく方が普通な気がするよ。

E：そうだね。環境対策って言ったって、日本では最近工口を売り出して企業が増えたり、電力会社も自動車産業も建設でも、地球にやさしいって宣伝してるし。

S：電気自動車はコスト的にかなり過剰なけど、生活に密着してて自分に損にならないことない？ 国民は協力できないよ。

K：経済、政治、ビジネスと環境はセットで考えてやんと国民には受け入れてもらえないよ。

M：温暖化の原因や対策に対して、批判した人間達だとして指摘とかを調べていくのは研究者の仕事です。一般人が温暖化の原因や対策に口を出すのもおかしいと思います。

E：二酸化炭素が温暖化の主な原因かどうかわからないけど、二酸化炭素を減らす活動自体に意味がないわけじゃないもんね。国や企業が環境対策のためにやってる活動に、私たちが国民が協力していくことが大切なんじゃない？ 最終的には、みんなの意識の問題だと思ってる。

K：私は環境教育をもっと小さい時からやるべきだと思ってる。義務教育の過程では環境の授業なかったし、今だって自分から知ろうとしないって知識は得られないよ。

E：確かにそう。小さい時に環境問題について考える時間があったら、環境意識も高まるし、大きくなってからも興味持って環境対策に関われるよ。

S：でも、原因が明確でなくて、本当に正しいことも分からない現状で、環境問題を勉強するって結構難しいよな。

集 記 編 後



年間報告書作成メンバー紹介

高野恵理子(2) ①編集長 ②調理に油を使わない エコ&ヘルシー食生活 ③笑顔を共有できる仲間	森川恵(3) ①挨拶・目次、 活動報告「RLB」 ②モノを大切にしていること ③素敵な仲間たちと多様な考え方	佐藤理恵(2) ①サミット特集 活動報告「エココン」 ②電気はこまめに消すようにしています ③様々な方面(学部)から見る環境問題への姿勢	矢田明(1) ①1回生特別レポート ②食べ物はカスまで食べる。 ③これから得たいと思います。	小野可織(1) ①省エネ 1回生特別レポート ②暖房使わず、こたつと湯たんぽで冬を乗り切りました!! ③気分上昇↑
村田諒平(1) ①サミット特集 1回生特別レポート ②京田辺市外の井手町から自転車通学 ③ホットパッションをもった仲間	堤英貴(1) ①1回生特別レポート ②家を出る前、冷蔵庫以外のプレーカーを落とす ③環境に関して話せる場所	籠橋直人(1) ①1回生特別レポート ②使わない家電製品のコンセントを抜くこと ③環境への心遣い	濱田陽平(1) ①理念・活動軌跡 1回生特別レポート ②裏紙を使用 ③環境に関する知識と貴重な経験	今井絢(2) ①サミット特集 ②環境に易しい商品を選択して購入 ③前代未聞のチャレンジができるチャンス →獲得予定!!
宮城修斗(2) ①省エネ ②自転車通学 ③人と成長	近藤陽(3) ①活動報告「京都環境フェスティバル」 ②エアコンの温度設定 夏28℃冬16℃ ③一緒に環境について考える仲間	米川安寿(4) ①挨拶・目次 太田氏講演会 ②質素な心 ③環境と自分の接点を探る機会	杉本圭(4) ①活動紹介「+E」 ②環境のために何か取り組んでいる事を自慢しなくてもいい社会を構築しようとしていること ③現実	小路万紀子 ①真剣DEPLしゃべり場 ②食べ残さない 冷暖房をあまり使わない ③やりたい事にトライしてみる力
橋本明英(4) ①データ総括 デザイン ②空調は使わない! ③DEPRoom	小林楓子(3) ①活動報告「あすみch」 太田氏講演会 ②ものを大切に使うこと!! チャリは今年で10年目 ③今の自分	鈴木一登(M1) ①多数ページのデザイン ②DEPの運営! ③生意気な後輩!	メンバーに聞きました!!! 名前(回生) ①担当記事 ②私のエコ自慢 ③DEPがくれたもの	

運営委員	一回生	二回生	三回生	四回生	修士一回生
鈴木一登 (M1) リーダー	浅井 保匡	大坪 和可	稲葉 亨	宇塚 芳乃	高木 佐和子
今井 絢 (2) サブリーダー	伊藤 友里加	酒井 恭佳	井上 幸	米川 安寿	山田 朋美
小林 楓子 (3) サブリーダー	小川 順子	小路 万紀子	上杉 祐都		
井口 景介 (3) サブリーダー	小野 可織	田辺 辰哉	川島 尚人		
杉本 圭 (4) チーフマネージャー	遠座 由有子	法武 修平	久保 菜穂		
山岸 里花 (2) マネージャー	籠橋 直人	藤井 春奈	近藤 陽		
松田 雄高 (3) マネージャー	堤 英貴	細見 菜由	白石 有里恵		
高野 恵理子(2) 広報長	村田 諒平		辻内 智之		
佐藤 理恵 (2) 広報	矢田 明		橋川 健太郎		
森川 恵 (3) 今出川支部長					
宮城 修斗 (2) 今出川支部					
橋本 明英 (4) システム管理局長					
濱田 陽平 (1) システム管理局					

ALL MEMBERS IN DEP '08



みんなの掲示板

新メンバー募集

DEPでつながる。

- Point 1
サークルではない、大学組織だから出来る大規模活動!!
- Point 2
多学部多学科、多様なメンバー構成(男女比3:7)
- Point 3
自分のスキルUPにも役立つ

省エネ

学内全体で行うDEP最大の企画です。DEPメンバー全員で行う企画なので、気軽に参加してください!

広報

文章力、イラストレータ一技術、編集、取材etc広報戦略に関するスキルが習得できます! 広報に興味のある方!一緒に活動しましょう!

あすみch

TV番組制作中です。プロから技術を本格的に学べます。メディアやマスコミ、映像編集など挑戦したい人は、是非来て下さい!!

GC

環境を切り口に国際交流を流しませんか? 英語が堪能な人、海外コミュニケーションに興味のある人、ファンキーな人!!是非来て下さい★

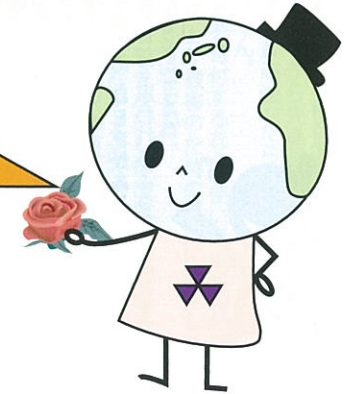
エコクロ

服のフリーマーケットを開く準備をしています! 新規プロジェクトです! 最初から、協力してくれる人募集します!

+E

小学校を訪問して、環境教育をします。子供が好きな人!里山・自然と触れたい人!!子供たちと自然の中で活動しよう。

環境問題に関心のある方、プロジェクトに興味を持たれた方、またDEPについてもっと詳しく知りたい方は、下記の連絡先までご連絡下さい。HPの方でも質問やエントリー等、随時受け付けておりますので、ぜひご覧下さい。



HP : <http://ecopro.doshisha.ac.jp/>
MAIL : dep.asumi@gmail.com